

卒業生の今 活躍する 医科歯科人

山内三男氏

1976年東京医科歯科大学歯学部卒業。78年ノースカロライナ大学チャペルヒル校デンタルリサーチセンターコーラーゲン生化学研究室特任研究院、88年同Director、94年Professorなどを経て98年より現職。

「本書の歯学部は、約60年前に設置されました。臨床研究はもろろんのこと、基礎研究も盛んです。基礎関係の大学院博士課程では、口腔生態学と口腔生物学の2つの専攻があります」

山内教授は、1976年に東京医

愛情とサイエンスに 根差した歯科治療

ノースカロライナ大学
デンタルリサーチセンター生化学研究室 教授 山内三男氏

ノースカロライナ大学チャペルヒル校は、米国の州立大学では最も古い歴史を持つ総合大学である。学部プログラムは71、修士課程は104、博士課程は74のプログラムが導入されている。スポーツも盛んで、マイケル・ジョーダンなど多数のスポーツ選手を輩出している。キャンパスのあるチャペルヒルの人口は、教職員や学生などの大学関

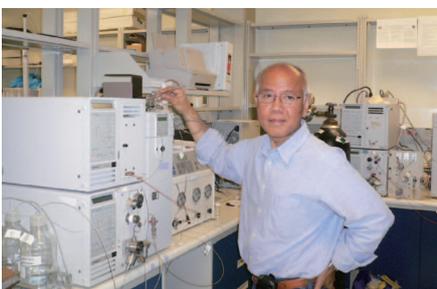
科歯科大学歯学部を卒業後、第一口腔外科教室に所属。臨床の傍ら、当時新しく開設された中央検査部で久保木芳徳主任の下、コーラーゲンの研究を始めた。78年に久保木先生の紹介でデンタルリサーチセンターのコーラーゲン生化学研究室に留学。81年までの3年間をポスドクとして過ごした。同センターでの研究を基に、東京医科歯科大学で博士号を取得。その後ノースカロライナ大学に招聘され、今日に至っている。

現在の研究分野は、結合組織の老化、無重力下での骨形成、コーラーゲンの修飾と石灰化の関連性など幅広い。教育では、歯学部の学部生、修士課程、博士課程の大学院生から、化学、生物学専攻の学生を対象に行っており、また、米国立衛生研究所(NIH)、米国航空宇宙局(NASA)のグラント審査などにも携わっている。このほか、米国内、海外の大学、研究所での講義などもあり、母校に講師として訪れることも少なくない。東京医科歯科大学から山内教授の研究室にポスドクの受け入れも行っている。

「学生時代を振り返ると、決して真面目な学生ではありませんでした。軌道部の主将を務めるなど部活動に力を注いだり、時間があればロシア文学、哲学、宗教関係の本を読

み漁っていました。しかし、そのようにして自分なりに幅広く学んだことが一つの見方にこだわらない柔軟性を養うことにつながったと思います。解剖学教室助教授だった野末哲夫先生には広い意味での学問への畏敬を、生化学の須田立雄先生からは研究的で緻密な実験の大切さを、軌道部の監督だった渡辺三雄先生には、武道、歯科診療などへの基本の大切さや、「己を立てず他を考える」という姿勢を学びました」

東京医科歯科大学の人材育成に期待することとして、次のように語る。「いたずらに流行に走ったりテクニックだけに頼る研究者や歯科医師ではなく、自己の信念と患者さんへの愛情に根差した真の医療人を育ててほしいと思います」



山内教授は、細胞間マトリックスによる石灰化誘導実験、骨再生、コーラーゲン修飾酵素の遺伝子制御と機能解明など様々な研究を進めている。

DATA ノースカロライナ大学 チャペルヒル校

アメリカ合衆国ノースカロライナ州
チャペルヒル

ノースカロライナ大学は1789年に開校した米国で最古の公立大学。1932年には、ノースカロライナ州内の3つの大学が単一のシステムで運営されるようになり、1963年からは、ノースカロライナ大学システムの旗艦校として、ノースカロライナ大学チャペルヒル校となった。チャペルヒル中心部の敷地内に、教室、研究棟、病院、図書館、学生寮、競技場など数多くの施設を抱えている。



写真提供：Sricholpech